



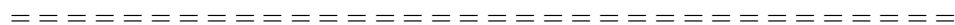
地域日本語支援ニュース こだま 第 273 号

2015.3.26



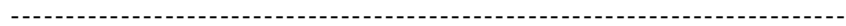
★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



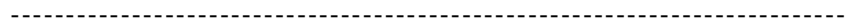
■ともに生きる■

ヴァッタ・ヴァバンさんに聞く ～その 2～
「古き良き日本を残しつつ、新たな画期的な風を」



前号に続き、1998 年 22 歳の時にネパールから来日され、現在は飲食店、旅行業、アパレル業、ホテル業を展開する株式会社 TBI の会長ヴァッタ・ヴァバンさんへのインタビューをお送りします。聞き手は AJALT 理事長の関口です。

☆☆☆☆☆☆



——ヴァッタさんにとって日本社会とは。

100%素晴らしいというのではないんですけども、ただ日本はすごい特別な世界だと思うんです。外部からすれてない、全てのものが独自というか。

——日本は住みやすい国ですか。

海外在住ネパール人協会というのは世界に 68 ヶ国ありまして、今国際本部の副会長をやっています。その関係でいろいろな国に行きますが住みやすいのは、移民の国です。でも私はチャレンジャーなんで挑戦する人にとっては日本はいいと思います。日本は何年いても外国人として扱われる。これから外国人は増えていくじゃないですか。私はもう一体化、溶け込んでいるので溝がない。でもいきなり来た人にとってはそういう溝があるとよろしくない社会になっていくんじゃないかと。

——（聞き手：以下略 日本はこれから変わっていかないといけませんね。）

移民の国ではない日本には独自の文化があるので、郷に入っては郷に従えと思います。私は 3,000 人近く日本人を雇用して莫大な税金を納めています。知り合いもネットワークも奥さんも日本人で日本人と同じくらいサポートしてもらえる、問題ないんですけれども、振り返ってみると怖い道歩いてきたなと思います。これから来る外国人たちの守りとしてこういう所がありますよ。なんかあった時にこういう所に行けば保護されますよとサポートする機関があればいいと思っていますね。

——（これから増える外国人の家族のことも考える必要がありますね。）

需要と供給のバランス、海外では仕事がない、日本にあれば仕事がある。日本は人手がない、需要は高まっている。そういうなかで持ちつ持たれつという環境がもたれるべきだなと思います。

——在日ネパール人の集まりは。

あります。日本ネパール人協会など。それにネパールは多民族国家なのでそういう人たちが会を作っています。かつて代表をやっていた海外在住ネパール人協会もあります。私が新宿にいるから、ネットワークもありますし、新宿、新大久保中心になっています。

——日本で頑張っている外国人にアドバイスを。

今までの古き良き日本を残しつつ、新たな画期的な風を吹かすことを考えて頂きたいです。

——今後も日本に住まわれますか。

基盤は日本にしながら国際的な活躍をしたいです。ネパール人は海外に出たのはいいけれど、みな国を忘れて移住してしまいます。優秀な人たちは海外に出て(国は)可哀想な状態です。ネパールに知恵や将来につながるものも持って帰りたいので支援したい。向こうでも TBI という会社をやっていますので日本のビジネスのポリシー、カルチャーも伝えたい。日本は最先端、ネパールはこれからの国なので、まだ噛み合っていないのですが、あきらめずに頑張ります。

日本で活躍してるというのはひとつのブランドです。上場すると外国人でゼロからやっている会社では初めてかもしれません。

——(上場、こわくないですか。)

挑戦なんです。日本の市場で上場できるというのは、日本人からの信頼をやっと得た、オーナーカンパニーではどんなことやろうとしても自分の世界ですが、信じてもらえる証明になります。そうするとネパールでの事業展開も

ずっと楽になります。日本の食文化で世界に出たい、外から日本に来てここまでステージを作っていますから、ここから外行くというのは私から見ると一番楽な仕事なんです。日本基盤で世界戦略です。

——人を育てるというお考えですね。

会社ではなくこれは学校だという考えです。日本は成長したのはいいんですが、昔のことは忘れてしまっている。日本の、家族を大事にしたり和を守るといふ侍スピリットを忘れている部分がありますが、素晴らしいと私は気づいているんです。日本のそういう所を私は好きになったのです。それを持ったエナジスティックな青年たちを社会に出したい。かつて素晴らしい経営者たちが画期的なあたたかいヴァイオラントジャパンを創ってくれたわけです。あたたかいもの、古き良きものに画期的なものを、そういう経営者たちを育ていきたい。そういう人がでてきたら、日本はさらに凄い国になっていくんじゃないか。そのために教育が一番大事だと思います。

20代でもどんどん手を挙げ社長になってもらって「TBIの基本を守って、独自の文化でやってください」と言います。失敗しても再チャレンジする機会を与えます。「飲食店でも大企業でもいかに偉大さを保つかはあなた次第です」と言います。その中から一人でも松下幸之助が生まれたらいいなと思っています。

——日本人のかわりに日本の若者たちを育てていらっしゃるのですね。

本当に、日本の社会でも重要な役割をやっているつもりです。これが、いいやり方だと日本政府の支援はなくても、注目位でもあればいいですね。

——（普段謙虚で、何もおっしゃらないですね。）

私はまだまだで、大先輩の前でなにも言えません。皆様に本当にお世話になっていますので。

——今日はお忙しいなか、本当にいろいろありがとうございました。

（聞き手 公益社団法人国際日本語普及協会理事長 関口 明子）

★皆様からのご感想をお待ちしています。
